

全科協ニュース

平成2年5月1日発行
(通巻第113号)

全国科学博物館協議会

東京都台東区上野公園

国立科学博物館内

〒110

Tel. 03-822-0111 (大代)

Fax. 03-824-3298

- おもな内容
- ◇ 全科協博物館事業研究会に参加して
 - ◇ 全科協 北から南から

全科協博物館事業研究会に参加して

博物館の仕事をするようになってやっと1年という時にこの研究会に参加させていただきましたが、その感想などを述べてみたいと思います。

今回の研究テーマは「特別展について」とりあげられましたが、私の館では年に7～8回の特別展、企画展を開催しており、企画・調査・研究から資料の借入れ、解説パンフの作成、展示まで担当学芸員は大変だということが感覚的にわかりかけてきたところでした。

○講演 「科学博物館と特別展」

国立科学博物館の手塚部長の講演要旨は、

この研究会が昭和48年にスタートして以来、展示と教育活動について取上げてきたが、特別展を取上げるのは初めてである。最近の特別展は、業者ペースに入りやすい傾向になった。

特別展は、大正5年コレラ予防問題を国立科学博物館で実施したのが初めてであった。当時は、ラジオもまだ少なく、新聞のみが見られる時代であったので、博物館で社会啓蒙のPRを行った。「儉約」「時の記念日」等の社会問題の展覧会や「江戸時代の科学展」で科学知識の普及を行った。

特別展の意義は、展示の補完にある。

体系的に知らしめることができることによる波及効果は博物館活性化と博物館事業PRができることである。

近年、生涯教育ということで社会全体が目を向けてきたのでこれに対応する必要がある。

特別展については、その経費と入館者数からその要否まで論ずる意見までである。効率性は考えなければならないなどとのことであった。

私の小学生時代は昭和10年代であったので、戦時体制下にあり、博物館どころではなかったが、自分から見

たばこと塩の博物館 浅田 眞 治

行ったのは鉄道博物館で、実物や精巧な模型を身近に見られるのがすばらしいことであった。

生涯教育がとりあげられるようになったのは、年輩者に対してであって、退職後の男性や子離れた女性が自分の自由な時間が多くなった時、何を目的として生きていけばよいか自分で決められない人が多くなっているからであると思われる。仕事だけ、子供の教育だけが生きがいと考えるような価値判断を変えるのは自分自身しかないのではないか。一般的に科学系の博物館はどうしても小中高校生が対象の中心であると私は考えるのですが。

○特別展・企画展の概要

昭和63年度の特別展・企画展の入館者数が年間の総入館者数との関係で20%を越えれば大成功、10%ラインならばまあまあ良いとのことでしたが、企業博物館である私どもの館は、たばこと塩と2つのものしかない中で塩だけが科学に関係した1回のみ特別展であり例外だと感じました。

○サイエンスシアターの見学

最近新設された博物館は必ずといってよい程、投射映像の展示をしていますが、科博のものは、その裏の装置がががかりで複雑に見えてびっくりしました。耐用年数はどの位かわかりませんが故障すると大変ではないかと思いました。

○北米科学系博物館視察研修報告

久光文化施設研究所福島氏の報告は非常によくまとめられておりました。

博物館のあるべき姿というものがスミソニアン博物館についての説明とスライドでよくわかりました。

せまく、深く、館としての主張を持っており、規模、設備スケールの大きなことはうらやましい限りであり、工

夫されていることとして、生きているものの展示、さわられるものを展示、調べたいものを一諸に調べてくれる博物館は、自ずと人がやってくるものだと思います。また、ボランティアが大勢いることもうらやましい限りです。独立採算型経営に努力している点も感心しました。ただ、博物館が動植物園化し、動植物園が博物館化しているとの点では日本もそうなりつつあるのではないかと思ひ、残念です。

わが国の最近の風潮は、大人も子供もただ珍しいものが見られて遊べる所が好まれ、遊園地や博覧会だけに人が集まり、新しい知識を得よう、勉強しようとする人は少く、ただ話のタネとしてのみ経験する人達が多いのは嘆かわしい。

「博物館の衣食住」と題した科学技術館水嶋氏のスライドによる報告の中では、各館のユニフォームが印象に残りました。

私の感じでは、博物館に来て思いつきでも質問してくれる人は極めて少い様に思ひます。かたくるしい制服でなく、気軽に話しかけてもらえるようになるユニフォームがないものかと思ひます。

○特別展の企画・実施の留意点

名古屋市科学館三輪課長の発表では、新展示館開館の科学博物館としての御苦労がよくわかりました。

科学系の博物館は多数あり常設展示はどこも似ており、特色を出しにくくなっている。2～3年過ぎると利用者数が減ってしまう。知的要求を博覧会に向けられてしまうとのことでしたが、私の館の特別展「塩のふしぎ'89」も横浜博の影響か入館者は前年比67%にとどまりました。

その他、企画のマンネリ化を避けるための学芸員の士気の向上、テーマの選び方、借入れ資料の手配時期から2～3年前の企画立案の必要性が述べられた。特に、どんなテーマを選ぶかは特別展を開催する2～3年後の、見る方からのニーズ、つまり新しい話題の予想を2～3年前にしなければならぬ困難が指摘された。

釧路市立博物館の山代氏の発表は「北海道の化石展」について報告されたが、その展示内容は私の趣味からはとてもすばらしいものと感じました。遠隔の地といつては失礼ですが（私は未だ北海道へは行ってないので）これだけのものを各地から集めたのは相当な力を注がれたものと思ひます。

そこで、特別展開催の時期選定の基本として入館者が少ない11～12月にしているとの点については疑問に思ひました。最も力を入れたすばらしい展示は、より多くの人が入館できる時期に開催する方がよいのではないのでしょうか。私的なことですが、私は考古学を趣味とし、この6年間で考古関係の博物館、資料館、郷土資料室など220か所、延 280回見てまわっていますが、見る側としての

意見を云わせていただくとすれば、もったいないなと感じました。

○特別展の実施と評価について

府中市郷土森博物館の石川氏の発表は、「日本のスペースシャトル」展について、いろいろな調査資料を添えて説明されたが、手作りの展示をこつこつとよくやられているものと感じました。併設のプラネタリウムと企画展示のテーマを同じにすると、プラネタリウムを見た人の大部分が企画展を見ているとのことでしたが、私もまず定時に行われる講演などを聴いたあとで関連するものを見て確かめるという順序をとっていますので、企画テーマを同じにすることはよい方法だと思います。

生駒山宇宙科学館の浜根館長の発表は、伝統ある博物館として自信あふれた内容で感銘を受けました。プラネタリウムを持つ館が増える中で、特別展のネーミングを最も重視し、先見性あるタイトルを自ら作ったポスターでアピールしてこられた点は学ばなければと思ひました。

タイトルでいかに魅力を持たせられるか、その表現が展示内容とかけ離れていないか、誇大広告にならないか、決め方によって入館者数にも影響するので選び方は非常に難しいと思ひています。

PRの点では、近鉄や新聞社が力を入れてくれるとのこと、うらやましい限りです。

○これからの特別展の企画・実施について

自由討議で次のような意見が述べられた。

共同企画展について

- 理工系博物館では地方の特色は出しにくい。
- 他館で製作したものをそのまま展示するのは意味がない。自館の工夫やアレンジを大切にしたい。
- 他館への影響を考え、地域割が必要、近い所同志では組みにくい。
- 乗物で1時間の範囲内は被害圏であろう。
- どこも夏休みに開きたいと考えるので期間の調整が難しい。また次回開催までの保管場所の問題もある。
- 千葉では県立博6館で持ちまわり展をやっている。
- 理工系は常設展示以外の収蔵資料が少ない。
- 規模が同じでないと共同企画展は難しい。
- 各館が開催した過去の特別展について、全科協を通して情報交換したい。
- 資料を持ち寄って懇談できる場を作ってほしい。
- 特別展に力を割きすぎる感がある。常設展も大切ではないか。
- 学習におもしろさも必要と思う。特別展のよかったものを常設展示に組入れたものがある。
- $\frac{2}{3}$ 位は常設展示に変えている。暗かったものを明るくし、数も増やしている。
- 情報交換は2年前からやっている。

○展示はまず物であるから収集に常時努力しておく必要がある。

○珍しいもの、変わったものと考えがちであるが、民俗資料など既存のものとの再発見もあってよい。

○文部省から科学教育に補助金が出る。

○館の特色を出さねばと思っている。

○環境問題は新しいテーマになると思われる。

特別展の評価について

○観光地にある博物館として入館者の半数は修学旅行者である。評価の方法は入館者数以外にないか。

○観光地では天候や事故による影響が大きい。

○評価は入館者と収入につきるのではないか。

○他にはかりようがないのではないか。

○1人の滞館時間は質的に見られる。

○個人の入館者が6割から7割になったが質的比較にはならない。

○遊園地の入園者年間60~70万人の中で入館者がその23%だったが、現在28~30%になっている。

○入館者数が開催期間中尻上りに増えたとき質的によいと見られるのではないか。

○アンケートの場合大人(高校生以上)の答えか、子供の答えかにより異なる。期待度、満足度も考えられる。特別展示を1人平均8~10分で通過している。

○経費をかけてよいものを展示すれば入館者は増える以上各館の悩みや考え方を聴かせていただいた。

博物館として独立採算を原則とするならば入館者を増やさねばならない。博物館の趨勢として、見て、さわって、動かせる展示、楽しみながら学べる展示を大義名分として入館者を増やす方向になるのであろう。しかし、私は一抹の不安を持つ。例えば、マイコンゲームについていえば、学ぶというよりもテレビゲームをするのと同じ気持ちでたださわって遊ぶ子供が多く、本当に学びたい子供は疎外されてしまうのではないか。博物館がただ遊びたい子供達に“大衆迎合”する結果となり、遊園地化してしまうのではないか。博物館本来の基盤を逆に弱めることにならないかと心配です。

○国立科学博物館の「大恐竜展」見学

その名のとおり、巨大で恐ろしい動物の子供の骨格のなんとかわいいことか。また、大腿骨の断面から温血動物であるとは驚いた。体の色、声はわからないので推測によるというのも夢があって面白い。

○国立科学博物館研修研究館見学

さすが、国立科博だけあって第一級の標本に見入ってしまった

以上、素人の私がいろいろ勉強させていただきました。研究会参加の皆さんありがとうございました。

■本年3月13日~15日に、国立科学博物館を会場として第19回博物館事業研究会が開催された。今回のテーマは「特別展について — 企画から実施・評価まで —」、全国から50名余りの参加者があり、実施内容は次のとおりであった。

○講演「科学系博物館と特別展」

国立科学博物館普及部長 手塚映男

○北米科学系博物館視察研修報告

㈱久光文化施設研究所 福島 徹
科学技術館 水嶋英治

○事例発表と研究協議

「特別展の企画と実施について」

名古屋市科学館 三輪 克

「特別展『北海道の化石展』について」

釧路市立博物館 山代淳一

「日本のスペースシャトル展」

府中市郷土の森博物館 石川博幸

「特別展の実施と評価について」

生駒山宇宙科学館 濱根 洋

年々参加者が増加し、会場となった国立科学博物館の会議室では、熱心な参加者から質問や発言もあって、予定時間を越えて討議が続いた。

3日目は、国立科学博物館で開催中の特別展「大恐竜展」を見学した後、国立科学博物館新宿分館の研修研究館を、視察研修した。

次年度以降の全科協博物館事業研究会について、取りあげると良いテーマや、ご意見・ご希望をお寄せください。(事務局)

■平成2年度 全科協海外科学系博物館視察研修

全科協が主催する海外視察研修は、回を重ねて本年度で第7回目となります。今回は最近何かと話題の多いヨーロッパに目を向け、英国、東西ドイツ、フランスなどの代表的な科学系博物館を中心に視察、研修する企画を準備しています。

科学系博物館の職員として、一度は見学しておきたい大英博物館(自然史)、ロンドン科学博物館をはじめ、東西ドイツ統一で注目を集めているベルリンでは、フンボルト大学自然史博物館、ミュンヘンのドイツ博物館を視察します。ベルギー王立自然史博物館、ラビレット科学センターなど、ヨーロッパの伝統ある博物館と最新の展示技術を直に研修できるコースと日程を組み入れました。この機会に多くの方に参加していただき、各館の今後の発展に役立たせていただきたいと思います。

なお、詳細は募集要項(申込書付)をご覧ください。

全科協 北から南から

■徳島県博物館が4月1日から新館に移転

平成2年11月3日に、徳島県博物館は新館オープンのための準備をすすめている。今年4月1日からは、文化の森総合公園内の建物に、移転がはじまった。

新館の展示構想については、本紙88年7月号（Vol.18-No.4）でも紹介してあるが、隣接して設けられる県立図書館と連携して、より多くの県民に親しまれる博物館として、生まれかわろうとしている。

徳島県立博物館の新所在地

〒770 徳島市八万町向寺山 文化の森総合公園内
電話 0886-68-3636(代)

加盟館園の特別展・企画展

■「地球と人間が描くランドデザイン」

航空写真の分野の第一人者と称される、ゲオルグ・ゲルスター氏の作品を、たばこと塩の博物館が日本で初めて紹介する。今回は、塩・自然・文化・農業をテーマとした、約50点が展示。会期 平成2年4月14日～5月27日

お問い合わせはたばこと塩の博物館（03-476-2041）

■新潟県立自然科学館では、このたび「宇宙からのメッセージ」「過去の生物」「化学の自動実験」の3つ新しい展示がオープンした。

「化学の自動実験」は、身近な化学反応の実験をボタン一つで見ることができる装置である。「宇宙からのメッセージ」「過去の生物」も楽しく学べるよう工夫した新展示である。

これら3つの展示解説書が作成されているので、内容等詳細は、新潟県立自然科学館 ☎ 025-283-3331へお問い合わせください。

■広島市こども文化科学館は、昭和55年に開館し、今年10周年を迎えた。これを記念して、同館の第1展示ホールの展示を全面更新し、5月2日に一般公開する。

新展示は、ふしぎな科学体験ができる「たんけんとりで」と呼ばれ、第1展示室の吹き抜けの構造を生かし、館全体への導入となるように構想された。

壁面には単色光の部屋や無限反射の中を通りぬけるすべり台、シーソー体重計、ねじり力くらべなど音と光の不思議な夢の世界を体験できる。

また、同館の10年間のあゆみをまとめた記念誌『ゼロからのたびだち — 開館10周年記念誌』を発刊する。

今回の新展示「たんけんとりで」、記念誌に関する問い合わせは、広島市こども文化科学館 ☎ 082-222-5346

■『チャレンジアイデア工作 楽しくくふういろいろ』

(社)発明協会発行 B5判 100頁 1,030円

広島市こども文化科学館で実施した科学教室の工作事例集が発行された。リニアモーターカー、ホバークラフ

トなど子供たちが、興味をもって製作に取り組める内容を、材料・道具をはじめ作り方手順と注意事項を詳しく紹介している。科学館の職員が執筆したこの本は、他の科学館等で実験・工作の指導を担当する者に大いに参考になる。

■オムニマックス映画『To The Limit』日本公開

全天周型カラー映画システム：オムニマックスの新作が、この春から日本公開された。

横浜こども科学館 「究極への世界」4.1～来年3.31

大阪市立科学館 「限りなき挑戦」4.25～10.31

上映時間、料金等は、直接お問い合わせください。

■「遊びが創るワクワク夢ランド」

でんきの科学館では、3月25日～4月1日に春休み中の小中学生を対象としたイベントを開催した。ドライブシミュレーションゲームやロボットメカランドなどの多彩な内容で、連日多数の子供たちで賑わった。

■「発明王エジソン展」

名古屋市科学館では、4月21日～6月3日まで、今日の科学技術の礎を築いた発明王エジソンの業績を振り返るとともに、千三百件を超える特許のなかから約三百余点のゆかりの品を展示。

特別展の開催予定

○「太古の生きものたち」

福島県立博物館 平成2年7月6日～9月2日

○「恐竜時代」

福井県立博物館 平成2年4月13日～6月3日

名古屋市科学館 平成2年7月21日～8月28日

浜松科学館 平成2年9月8日～10月7日

○「好本精 昆虫コレクション展」

千葉県立中央博物館 平成2年6月2日～6月22日

○「私たちの宇宙開発 ～はるかな宇宙への夢～」

板橋区立教育科学館 平成2年8月21日～9月2日

○「化学展 '90 暮らしから海洋・宇宙まで

— 楽しいみんなの実験室 —

国立科学博物館 平成2年7月31日～8月26日

加盟館の出版物

○埼玉県立自然史博物館収蔵資料目録第4集

シダ植物 (1) 1990

○埼玉県立自然史博物館研究報告 第8号 1990

○特別展図録「永河期の狩人—武蔵野台地の旧石器—」

○府中市郷土の森紀要 第3号 府中市郷土の森博物館
1990.3.

○サイエンスガイド No.9「郷土の自然観察」1990

岐阜市科学館

○鉱業博物館 第22号

1990.2

秋田大学鉱山学部鉱業博物館